

つばさ

～男女が支え合い、いきいきと暮らせるまちをめざして～

情報紙の
名称の由来

『つばさ』・・・「誰もが自由な心で生きられる社会を思い、男女共同参画社会の実現に向かって飛躍していきたい」という願いを込め、その力となる「翼＝つばさ」を象徴しています。

みんなで作ってきた「つばさ」が30号を迎えました！

男女共同参画情報紙「つばさ」は、男女共同参画の具体的取組や活動団体等を紹介する地域密着型の情報紙として、平成18年に創刊してから15年間、年2回発行してきました。年齢や性別を問わず多くの人々が気軽に読むことができ、身近なところから男女共同参画に関する情報をお届けできる情報紙となりますよう、どんどん紙面へのご意見をお聞かせください。

これからも皆さんの力で「つばさ」を育てていただきますようお願いいたします。



2006年9月発行 創刊号



創刊号では、情報紙の名称を紙面募集し「つばさ」と決定しました。まさにみんなで作る情報紙ですね。

2011年3月発行 10号



10号では、男女共同参画フォーラムの報告や市民意識調査から見る津市の現状、市民活動団体の紹介などを取り上げました。

2016年3月発行 20号



20号では、新津市誕生10周年特別企画として「津市の男女共同参画を担ってきた男女（なかま）たち」を紹介しました。



歴代の「つばさ」

編集スタッフ

募集中！



創刊当初からこれまで、多くの編集スタッフが紙面づくりを行ってきました。

どんな記事にしようか、どんな風に書いたら伝わりやすいかなど、編集会議を重ね、みんなで工夫しながら紙面を作っています。

経験は問いませんので、紙面づくりや男女共同参画に関心があるなど、編集スタッフに興味がある人は、津市男女共同参画室へお気軽にご連絡ください。



つばさ編集スタッフによる 座談会

①家庭🏠、②職場🏢、③社会👥での男女共同参画
について考えてみました。

テーマ①「これまでと比べて、最近はどうだろうか？」

テーマ②「これからどんな風になったらいいだろうか？」

みなさんも、
ご家族や職場の方と
考えてみませんか？

テーマ① これまでと比べて、最近はどうだろうか？

🏠 イクメン
増加

でも男性ばかり
「イクメン」と
褒められるのは
不公平！？

🏠 できる人ができ
る家事をする

最近は家事をする
男性も増加↑

👥 男女差につ
いて言われ
ることが少なく
なってきた

いろいろな生き方が受け入れ
られるように

👥 生き方の
多様化

👥 性の多様化

🏢 かつて女性は出産＝
退職する人が多かつ
たけど、今は出産後も働
く人が増えてきた

女性のライフスタイルが、「出産＝退職」
の時代から、「育休→復帰」の時代へ

🏢 部長や課長などの
管理職には、未だ
に女性が少ない

🏢 女性登用を評価

女性登用が珍しいこと
ではなくなるという

🏠 結局、女性が担
う家事多い

🏢 昔に比べ、男性も育
休が取りやすくなっ
てきた

🏢 ハラスメントも
まだまだ多い

🏠 未だに家事や育
児は女性がする
ものだと思ってい
る高齢者層が多い

🏢 一方、休暇制度は
あっても、休暇を取
得しにくい雰囲気が残っ
ている

👥 自立できない
女性も多い

非正規雇用・無職など
のため、経済的な自立
が難しいのでは…

世代ギャップ！
高齢世帯では
「家事＝女性」
の意識が残って
いる？！

制度の整備とともに
利用しやすい職場の雰
囲気づくりが必要！



ジェンダー平等

「ジェンダー」とは、社会的・文化的に
つくられた性差をいいます。

これまで、多くの国々では、歴史的背景や社会の風潮に応じ、
「女性はこうあるべき、男性はこうあるべき」など、性別に
よって行動規範や役割分担を人為的に定める政策が行われてき
ました。

5 ジェンダー平等を
実現しよう



しかし、性別は男女に二分
様なものです。この多様な性
「ジェンダー平等」を受け止
めるジェンダー的な視点を問
公平な人間関係をつくってい
近年、小中学校などでもS
等」が使われるようになって

テーマ② これからどんな風になったらいいやろか？

①個性重視

そもそも「男女」って？

「男女」で
仕事や役割を
決めないで

男女の区別より、
その人＝個人が大切

一人一人が得意な
ことをやろう＝個性

②選択肢がある

いろんな生き方・
働き方ができるよう

いろんな制度があれば
選択できる

選択肢があれば・・・
チャレンジできる

③知る機会を もっと身近に

知る機会が大事！

その人の立場に立って
考えられるよう

経験がない人
→自分の意見を
押し付けがち

いろんな生き方・
考えがあることを
知ることが大切

身近なところから
男女共同参画の必要
性に気付いてもら
えるような紙面
づくりを！
もっと多くの人に
「つばさ」を広め
たい。

まとめ

これからの社会に望むこと

①個性を重視

「男女」より「個性」を大切にする社会へ

②選択肢がある社会に

選択肢を設けることで、多様性が輝く社会へ

③知る機会をもっと身近に

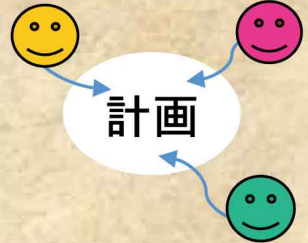
異なる考え・生き方を知ること、多様性を認め合える社会へ

編集スタッフの座談会では、このような「まとめ」になりましたが、いろいろな考え方があると思います。何かの機会に、みんなで話し合ってみてください。

ことばから考える
男女共同参画

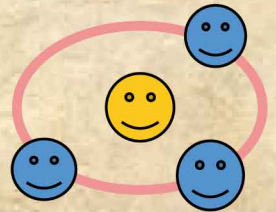
「参画」と 「参加」の違い

参画（さんかく）
計画に加わること。



参加（さんか）

仲間になること。
行事、会合、団体に
加わること。



引用：広辞苑（第7版）

「参画」とは、単に仲間になるということではなく、計画段階から関わることを言います。皆さんは、家事や育児に「参加」になっていませんか？

一人一人が、自分でできることを見つけて「参画」する気持ちを持つことが大切ですね。



できるものではなく、もっと多
くのあり方に応える言葉として
使ってみませんか。自分の中に
直し、性別に関係なく、対等
できませんか。
DGsとともに、「ジェンダー平
等」を達成しました。

世界経済フォーラム（WEF）が毎年発表する各国のジェ
ンダーギャップ指数。2020年の日本の順位は、153か国中、
121位と引き続き低迷を続けています。この背景には、私た
ちのジェンダー平等への理解不足があるのではないでしょ
うか。

我が国が、特に遅れている政治・経済分野を改善するため
にも、みんなで「ジェンダー平等」を考えましょう。

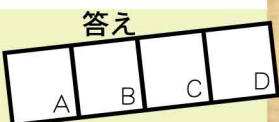
男女共同参画 クロスワード

にちなんだ

応募方法

当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。
また、お寄せいただいた感想等は、本紙に掲載させていただきます。

A～Dに文字を並べて応募！
正解者の中から抽選で5名様に
賞品プレゼント🎁



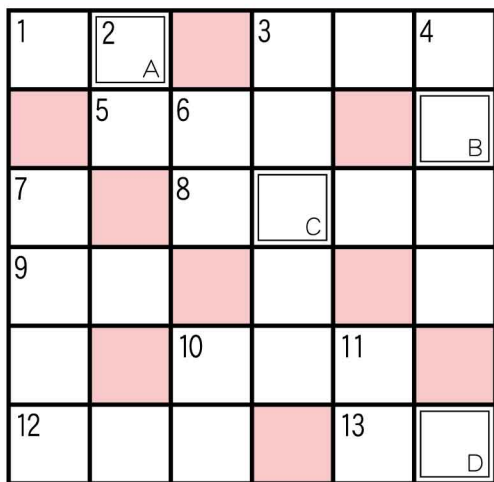
答え

●ハガキまたはEメールで、4文字の答えと①住所、
②氏名、③年齢、④電話番号、⑤本紙の感想を
編集・発行元（津市市民部男女共同参画室）へ

●応募締切：4月30日（金）必着

ヒント 苦境を乗り越えた人に多い格言
「ピンチは〇〇〇〇」

タテ



- 2 〇〇道、〇〇水、〇〇室
3 社会的・文化的につくられた性差のことをこういいます
4 単語を省略してこういいます
6 軸で何本もつながっている状態のブドウやバナナを数える単位です
7 疫病などに関する予言をしたと伝えられる日本の妖怪
10 湾、椀、oneに共通する読み方は？
11 童謡では、森の中で出会ったら、お逃げなさいと言ってくれる動物です

ヨコ

- 1 〇〇麦は、食物繊維が豊富に摂れる優秀な食材で、腸活（腸内環境を整えて、健康な身体を手に入れること）におすすめです
3 自分自身もしくは自分たちを被写体とした撮影方法をこういいます
5 本来は、コーヒーの意味ですが、転じて、コーヒーなどを飲ませる飲食店をいうようになりました
8 事業・政策などの計画に加わることをこういいます
9 津市民歌「この〇〇が好きさ」
10 テレ〇〇〇とは、情報通信技術（ICT）を活用し時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働く形態をいいます
12 読み聞かせと言えばこの本
13 クロスワードの問題に答えて、コレに文字を埋めましょう



クロスワードは
私のオリジナル！

※ 前号（No.29）の答えは、「ツナガリ」でした。たくさんのご応募ありがとうございました！

簡単料理コーナー

腸活レシピ！

もち麦入り健康バーグ

もち麦は、
食物繊維が
たっぷり♪



お好みで デミグラスソースや
ケチャップをかけて召し上がれ♪

材 料 （2～3人分）

合挽き肉 400g
玉ねぎ 大1/2個（60g）
もち麦 大さじ1（生）
もしくはゆでたもの50g
卵 1個（50g）

米粉 大さじ3
塩 3g
コショウ お好みで
赤ワイン 40g（無ければ酒）

A

作り方

レシピ提供：NPOマザーズエイド 山本

- ①鍋に多めの水を沸かし、もち麦を入れて20分ゆで、ざるにあけて、水気を切る。
- ②玉ねぎは、みじん切りにする。
- ③ビニール袋（大）に、①と②とAを入れて混ぜ、合挽き肉も加えてもみこむ。
- ④③に卵を入れてよく混ぜ合わせる。
- ⑤フライパンを熱し、④を適当な大きさにして両面をよく焼く。

らくちんポイント

私が考案しました！

- ・玉ねぎの炒めなし＆ビニール袋で混ぜる、簡単調理！！
- ・ゆでた「もち麦」は冷凍保存できます。少し多めにゆでて小分けしておくとしょの具材にもなり便利。



編集後記

3号からつばさ編集スタッフとして携わってきたことを振り返ると、「まちを元気にする男女（なかま）たち」のインタビューや「ぶらりライブラリー」での図書館訪問などをはじめ、編集会議で紙面作りを話し合った風景が懐かしく思い出されます。

今回30号を迎え、初の試みとして事務局と編集スタッフの座談会を行い、「これからの社会に望むこと」をまとめて掲載しました。

これからもスタッフみんなで協力して身近で親しまれる情報紙「つばさ」を作っていきたいと思います。（小林）

前号に寄せられたご意見

- ・脳トレクイズもお願いします。鯖の味噌煮は、男性でも作れそう。やってみようっと！
- ・コロナをどのように家族で協力しながら少しでもストレスなく乗り切るかのヒントになりそうな記事もあり、楽しく読ませていただきました。
- ・クロスワードは、知らない単語が多くて難しかったです。勉強になりました。